

来週の市場とレート予想

上田八木短資株式会社

	2015/12/28(月)	2015/12/29(火)	2015/12/30(水)	2016/1/4(月)	2016/1/5(火)	2016/1/6(水)	2016/1/7(木)	2016/1/8(金)
無担保O/N	0.001% ~ 0.125%			0.030% ~ 0.125%				
銀行券	△ 3,700	△ 2,000	△ 1,500	+ 7,000	+ 7,000	+ 5,000	+ 3,000	+ 2,000
財政他	△ 3,400	△ 2,000	△ 4,500	+ 2,000	△ 4,000	△ 25,000	△ 24,000	+ 5,000
資金需給	不 7,100	不 4,000	不 6,000	余 9,000	余 3,000	不 20,000	不 21,000	余 7,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M)					法人税・消費税揚げ 保険揚げ	国際発行(10Y)	
オペ期日	CP等買入 △ 1,100			共通担保(全店) △ 1,500				
オペスタート	国債買入 + 5,200	短国買入 + 5,000	CP等買入 + 5,500					
(日本)	鉱工業生産指数(11月) 石油統計(11月)		決済動向(11月) エネルギーと生鮮食品を 除く消費者物価指数 (日銀発表)(11月) 大納会	通常国会召集 貸出約定平均金利 (11月) 大発会	マネジャーベース(12月) 日銀営業毎月報告 (12月31日現在) 日銀が保有する 国債の銘柄別残高 日銀による国庫短期 証券の銘柄別買入額	日銀当座預金増減 要因(1月見込み)	対外対内証券売買 (前週、前々週分)	日本銀行の対政府 取引(12月) マネジャーベースと 日本銀行の取引(12月) 景気動向指数(11月) コール市場残高(12月) 毎月勤労統計(11月)
(海外)		米 S&P/ケース・シャー 住宅価格指数(10月) 米 消費者信頼感 指数(12月)	30日 米 中古住宅販売 成約指数(11月) 31日 米 新規失業保険 申請件数(26日終了週) 米 債券市場は午後 2時までの短縮取引	3日 米 グラブランド・連銀 総裁講演 4日 米 建設支出(11月) 米 ISM製造業景況 指数(12月) 欧 ユーロ圏製造業 PMI(12月)	米 自動車販売台数 (12月) 欧 CPI(12月、連報値)	米 ADP雇用統計(12月) 米 貿易収支(11月) 米 ISM非製造業 景況指数(12月) 米 製造業受注(11月) 米 FOMC議事録 (12月15、16日会合分) 欧 ユーロ圏総合PMI (12月、改定値) 欧 ユーロ圏生産者 物価指数(12月)	米 新規失業保険 申請件数(2日終了週)	米 雇用統計(12月) 米 卸売在庫(11月) 米 消費者信用残高 (11月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	0.050 ~ 0.120
SPOT 2M	0.110 ~ 0.155
SPOT 3M	0.117 ~ 0.160
SPOT 6M	0.120 ~ 0.170

<インターバンク>

今週の当座預金残高は21日、国庫短期証券や国債の大量償還を主因に、前日対比5兆2,100億円増の253兆1,900億円からスタートし、その後も横ばい圏で推移し、週末は253兆5,000億円で越週した。無担保コールON物の加重平均金利は、24日に大きな試し取りの動きがあり、0.12%台の出会いが多く見られたため0.086%となったが、その他は0.074~0.075%で推移した。週末25日は弱含み、0.073%となった。また年末初物では0.001%の調達気配が見えたが、出会いは見られなかった。ターム物は、年内1W物で0.11%台後半の出会いが見られた。21日、20年債は一時出来値ベースで1月27日以来11か月ぶりに1%を割り込んだ。25日、総務省が発表した11月の全国CPI(生鮮食品を除くコアCPI)は、5か月ぶりに前年同月比で上昇し、+0.1%となった。

【オープン市場】

NCD 3M	0.090 ~ 0.120
CP3M(a=1+)	0.010 ~ 0.050
TDB 3M	▲0.050 ~ 0.000
現先(on/1w)	0.050 ~ 0.100

<CP>

今週の入札発行額は約13,700億円、期落ち額約11,400億円(金融機関・ABCP除く)を上回った。a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.060%台前半~0.100%近辺を中心に推移した。現先レートの中心は、0.050%~0.100%程度で推移した。来週の期落ち額は約15,900億円程度となっている。

<TDB>

24日に国庫短期証券3M第579回債の入札が行われたが、最高落札レートは△0.0144%(前回債△0.0111%)、平均落札レートは△0.0209%(前回債△0.0242%)と前回債から最高利回りは低下した。セカンダリーは3Mで△0.05%近辺の出会い、6M、1Yは△0.10%近辺の地合いとなった。来月7日に3Mの入札が行われる予定である。

<レポ>

足許GCは先週末対比0.01%程度低下の0.07%近辺の出会いから始まった。先週に引き続き業者のファンディングニーズが強く、25日受渡しではSNで0.075~0.09%での出会い、TNでは0.09%台後半まで上昇した。この流れを受け、TDB3Mの発行日となる28日受渡しではSNで0.09%台後半、TNで0.10%まで上昇した。週末には短国買入オペが5,000億オファーされたが、0.095~0.10%での出会いと、レートはほぼ横ばいのまま越週した。SCは10年336回債がON物・ターム物ともに週を通してネガティブレートで推移した。10年337回債は24日以降ビッドが目立ち、ON物・ターム物ともにネガティブレートでの引合いが見られた。2年債は356・357・358・359回債、5年債は118・121・123・125回債、10年債は325・327・331・337・340・341回債、20年債は147・150・151・152回債、30年債は46回債に引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。